

## 会長挨拶

### 会員の皆様へ

日本人口学会会長 津谷典子

昨年6月より会長の任にある慶應義塾大学の津谷典子です。この場をお借りして、会員の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。本学会は1948年11月に創設されて以来70年余にわたる長い歴史を持ち、さまざまな研究分野で活躍された諸先輩方の多大な貢献により維持・発展し今日に至っています。今回この歴史ある学会の会長にご選任頂き、微力ではありますが、学会のさらなる発展に尽くすべく決意を新たにしております。

とはいえ、現在わが国がおかれた状況を考えると、これは容易でないことも承知しております。会員の皆様もご存じのように、わが国の人口は2000年代末に減少局面に入り、2010年以降減少は本格化しています。人口減少は今後さらに加速する可能性が高く、最新の公式将来人口推計(出生と死亡ともに中位仮定)によると2065年の人口は約8800万人となり、2015年の約1億2700万人からおよそ3割減少することが予想されます。この急速かつ継続的な人口減少はまた、超高齢化を伴ったプロセスでもあります。わが国は1970年代半ば以降急速な人口高齢化を経験し、2015年の老年人口比率は約27%と世界で最も高齢化の進んだ国のひとつであることはよく知られています。さらに、75歳以上の後期高齢者人口割合も2000年代以降明らかな増加傾向にあり、2015年には総人口の約13%を占めています。そしてこの割合は2055年には25%を超えると推計されています。このような今後日本が経験すると予想される未曾有の人口変動の影響は、社会保障制度や経済にとどまらず、親子関係や夫婦関係、そして職場の人間関係や地域社会のあり方など多岐にわたり、また私たちが現在想像もしないような変化が起こってくる可能性もあります。

日本社会のメンバーである本学会も当然ながら高齢化しており、若者人口の急速な減少のもとで学会員数の増加も一筋縄ではいかない状況にあることは否定できません。また、会員人口におけるジェンダーバランスを向上させ、会員の世代間インターアクションを活発化させ、さらに会員による非学術的分野における活動の幅を広げるための環境づくりが必要であることも強く感じています。その一方で、多様な学際的分野を包括する実証科学としての人口学の日本および国際社会への貢献が今ほど必要とされている時期はなく、さまざまな人口変動とその要因、そしてそれらがもたらす影響とインプリケーションについての客観的メッセージを効果的に社会に発信することの重要性は言葉では言い尽くせないものがあります。このような有用かつ有効なメッセンジャーになるための努力を皆様と一緒に続けていきたいと願っております。会員の皆様のご協力とご尽力をお願い致します。

## ◆日本人口学会第71回大会のお知らせ

大会企画委員長 黒須里美  
大会運営委員長 村山 聡

日本人口学会は、第71回大会を2019年6月1日(土)、6月2日(日)の2日間、香川大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通りシンポジウム、3つの企画セッション、1つのテーマセッションを設定しています。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。会員総会、懇親会は6月2日(土)です。また、大会前日の5月31日(金)には巡検(豊島巡航:人口・産廃・アート)と特別セッションが開催されます。

セッションタイプ	タイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	瀬戸内の環境と人口(ヒトと動植物): 新たなPopulation Studyを求めて	村山 聡	Japanese	一般公開 (6/1)
企画パネル1	天明-天保期の東北地方における気候と 人口ー歴史気候学と人口学との対話ー	川口 洋	Japanese	(6/2)
企画パネル2	性に関する情報と人口	小西祥子	Japanese	
企画パネル3	Child Bearing, Child Rearing and Child Survival in South Asia	Dilhani Wijesinghe, Satomi Kurosu	English	
テーマセッション	家族・価値観・幸福	影山純二	Japanese	公募
特別セッション	第6回「地方行政のためのGISチュートリアル セミナー」	井上 孝	Japanese	(5/31)
自由論題 セッション			Japanese/English	公募

\* 各セッションの詳細や参加・発表申し込みは、学会HPをご覧ください

\* 内容や登録・報告に関する問い合わせは大会企画委員

## ◆第71回大会報告トラベルグラントの募集について

### 研究企画委員会 委員長 和田光平

日本人口学会は、特に若手会員の学会活動を資金面から支援するため、第71回大会(香川大学)における報告へのトラベルグラントを下記の要領で実施します。

1. 支給金額・人数: 1人4万円以内の交通費ならびに宿泊費の実費額。4万円を超えても打ち切り支給とする。最大5名とする。

2. 応募資格:

- 応募時点で日本人口学会会員であること(入会申込書の学会事務局受理済みを含む)。
- 任期のない常勤者(例えば、大学の専任教員や研究所の専任研究員など)ではないこと。
- 登壇者として大会の報告を申し込み、報告が許可されること。
- 通常の申し込みに必要な規定の報告要旨の枚数(自由論題1ページ、テーマセッション、企画セッション2ページ)とは別に、本グラント審査用の報告要旨を4ページ提出していること。

- 大会参加のための交通費、宿泊費に係る費用が本務先、あるいは、他の研究助成、研究費などからも支給されないこと。
- 1979年4月2日以降に生まれた者であること。
- 自宅から当該開催地(香川大学最寄りの高松駅)まで、片道おおむね100キロ以上離れていること(参考までに、大阪駅、神戸駅、松山駅は該当しますが、岡山駅は該当しません)。

3. 応募方法: 報告応募期限日までに、大会HP内の報告申し込みフォームにおいて報告を申し込むと同時に、トラベルグラントの所定欄にも記入して応募する。

4. 選考方法: 有資格者の応募者数が定員以内の場合は、全員に授与する。定員を越えた場合は、研究企画委員会が選考するが、参考までに、①(非常勤講師をしていない)大学院生 ②非常勤講師 ③任期つき常勤者、の順で優先される。またこの基準で同順位の場合、あるいは単純にこの基準では順位づけられない身分や職位の者は、年齢と距離、あるいはその身分や職位から総合的に決定される。

5. 選考結果の通知:原則として、大会報告の可否通知と同時期に通知する。
  6. 授与の方法:領収証提出後に本人の銀行口座へ振り込む。
  7. 受賞者の義務:  
自宅開催地間の交通費・宿泊費(両方が合算されたパッキングツアーなども可)の領収証原本を大会後すみやかに提出すること。提出先は該当者へ個別に伝える。  
報告に基づいた論文(または研究ノート)を学会誌『人口学研究』または、他の研究雑誌へ投稿する。この義務の履行結果は理事会において報告される。
  8. 問い合わせ: 日本人口学会 研究企画委員会 委員長 和田光平(wada.00a@g.chuo-u.ac.jp)
- 以上

## ◆国際交流委員会の活動報告

国際交流委員会 委員長 小島 宏

今期の国際交流委員会は、2000年頃に3か国(日本、韓国、台湾)協定として締結され2011年に4か国(タイも参加)協定として再締結された他の人口学会大会での報告を可能にする制度を実質化すべく努力したい。「日本人口学会大会における研究報告に関する規定」に明記されたように他の3か国の人口学会会員の報告を受け入れるだけでなく、他の3か国の人口学会の大会でも日本人口学会会員が報告できるよう連絡調整に努めたい。

2019年4月19～20日に開催予定の台湾人口学会大会の応募締め切りが11月19日であったことから、広報委員会のご協力によりMLとHPでの会員への情報の拡散を行った(その上、HPから他の3か国の人口学会HPにリンクを張っていただいた)。また、すでにHPに掲載された来年の日本人口学会の案内(日本語)のURLを他の2か国の人口学会にも伝え、各学会の会員に伝えるとともに、各学会の大会情報を送ってくれるように依頼した。大会企画委員会が日本語版に次いで英語版のCFPをHP上に掲載したら迅速に、3か国の人口学会に知らせ、会員の報告を促してくれるよう依頼する予定である。

## ◆編集委員会の活動報告

編集委員会 委員長 林 玲子

2018年10月の理事会で了承を受け、『人口学研究』では、新たに【解説】というカテゴリーを設けることとなりました。これは、人口分析に特化したR のコードやGIS ベースのアプリケーションなどを解説とともに紹介し、広く共有を図ることを目的としたものです。研究ノートと同様の査読を行い、分量は10,000字(見出しを含み、刷り5ページ)以内となります。編集規定上は、これまでの【図書・資料紹介】を【解説】としたものですが、「人口学に関する研究・教育の遂行上有用な資料・技法等の解説を目的としたもの」としてあります。投稿・査読を経た原稿は、オンラインで早期公開が可能です。該当するコンテンツをお持ちの会員の皆様、奮って投稿をお願いいたします。

## ◆関西地域部会の活動報告

関西地域部会

川口 洋・中澤 港・平井晶子

関西地域部会

活動計画・2018年度研究会の御案内

### 1. 活動計画(2018-2020)

今期の研究課題として、(1)人口学からみた過去・現在・未来、(2)隣接分野との対話を掲げたい。  
人口学の役割は、過去・現在の人口変動とその要因を総合的にとらえ、人口変動を時間軸と空間軸のなかに位置づけ、将来予測につなげることにある。そのためには、人口変動の要因となる自然環境、社会環境に注目して、人口学に隣接する諸分野と対話を始めることが喫緊の課題である。

上記の研究課題を達成するために、毎年1回程度の研究会を企画運営する。研究会の会告や報告要旨などを日本人口学会HPや「人口学研究」などに掲載して広報に努める。研究会では、会員・非会員を問わず、幅広い年齢層の研究者から御報告いただき、十分な討論時間を取って議論を深める。参加者が30人を超え、会員の増加に繋がるよう、人口学の活性化に努めたい。

2. 2018年度研究会の日時:2019年3月23日(土)10:00～17:30

3. 会場:京都大学人文科学研究所4階大会議室  
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/access/access.htm>

4. 会場校の担当者:藤原辰史・瀬戸口明久(京都大学人文科学研究所)

5. テーマ:天明-天保期の東北地方における気候と人口 — 歴史気候学との対話 —

6. 共催:環境史研究会、麗澤大学・歴史人口学セミナー

7. 趣旨:研究課題(2)に掲げた課題の理解を深めるために、歴史気候学の研究成果を報告していただき、東北地方で多くの死者が発生した天明-天保期の気候と人口変動との関係について討論する。今年度研究会は6月1-2日に香川大学で開催される日本人口学会企画セッションの準備会とする。

### 8. プログラム

開会の挨拶・趣旨説明, 川口 洋(帝塚山大学)

第1報告, 司会:藤原辰史(京都大学)

日射量でみる天保期 - 日記天候記録を用いた気候復元-(市野美夏・人文学オープンデータ共同利用センター)

第2報告, 司会:藤原辰史(京都大学)

18-19世紀の歴史気候資料による気候復元(平野淳平・帝京大学)

昼休み 12:10～13:00

第3報告, 司会:瀬戸口明久(京都大学)

18-19世紀の会津郡高野組における天候・作況・農業・人口(川口洋・帝塚山大学)

第4報告, 司会:瀬戸口明久(京都大学)

18-19世紀の飢饉・短期経済変動と二本松藩の人口(黒須里美・麗澤大学)

第5報告, 司会:高橋美由紀(立正大学)

東北地方の過去帳からみた18-19世紀の死亡危機(溝口常俊・元名古屋大学)

総合討論, 司会:中澤 港(神戸大学)

討論者:池本裕行(高野山大学), 佐藤廉也(大阪大学), 増田耕一(首都大学東京)

閉会の挨拶 村山 聡(香川大学)

## ◆人文社会科学系研究者の男女共同 参画調査(第1回)ご協力の御礼

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会とGEAHSS(人文社会科学系男女共同参画推進連絡会)による人文社会科学系研究者の男女共同参画調査(第1回)が、2018年6月から11月末まで行われ、3000サンプル弱のデータが収集できた。ご協力くださった日本人口学会の皆様には深く御礼申し上げたい。2018年2月9日、13時から17時まで、日本学術会議講堂において、調査分析の中間報告結果が報告される予定であるので、ふるってご参加ください。(日本人口学会GEAHSS担当、および日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会委員長 永瀬伸子)

## ◆総務委員会の活動報告

総務委員長 石井 太

平成30年10月21日(日)に国立社会保障・人口問題研究所にて第二回理事会が開催されたところ、概要は以下の通り。

1. 国際交流委員会委員長より、海外の協定締結学会(韓国人口学会、台湾人口学会、タイ人口学会)との交流を実質化すべく、それぞれの会員がお互いの大会での報告をしあう取り組みを促進する旨、報告があった。
2. 総務委員会委員長より、日本人学会旅費規程につき、大会企画委員会委員、及び幹事が委員会に出席する際の旅費の支給を片道から往復にする旨提案があり、了承された。
3. 編集委員会委員長より、『人口学研究』において、現行の【図書・資料紹介】を【解説】とし、「人口学に関する研究・教育の遂行上有用な資料・技法等の解説を目的としたもの」とする旨提案があり、了承された。また、一般社団法人学術著作権協会との契約を終了する旨、提案があり了承された。
4. 大会企画委員会委員長、及び大会運営委員会委員長より、第71回大会の準備状況について説明があった。
5. 研究企画委員会委員長より、一定の条件で報告者の旅費を補助するトラベルグラントの制度の実施規定について、提案があり、常勤職に就いている者を除き、1人4万円で5名、年齢制限は39歳まで、応募者は長文要旨4ページ提出との条件の上、支給を可能にする旨、了承された。
6. 永瀬理事より人文社会科学系研究者の男女共同参画調査(第1回)について協力依頼があった。

## ◆役員名簿(2018-19)

役職(担当)

会長	津谷典子	慶應義塾大学
副会長(大会担当)	稲葉 寿	東京大学
理事(総務委員会)	石井 太	国立社会保障・人口問題研究所
理事(大会企画委員会)	井上 孝	青山学院大学
理事(学会賞選考委員会)	金子隆一	明治大学
理事(関西地域部会長)	川口 洋	帝塚山大学
理事(九州地域部会長)	草野洋介	西九州大学
理事(大会企画委員会)	黒須里美	麗澤大学
理事(編集委員会)	小池司朗	国立社会保障・人口問題研究所
理事(国際交流委員会)	小島 宏	早稲田大学
理事(広報委員会)	中澤 港	神戸大学
理事(国際交流委員会)	永瀬伸子	お茶の水女子大学
理事(東日本地域部会長)	萩原 潤	宮城大学
理事(編集委員会)	林 玲子	国立社会保障・人口問題研究所
理事(人口学事典刊行特別委員会・英書シリーズ刊行特別編集委員会)	原 俊彦	札幌市立大学
理事(中部地域部会長)	水落正明	南山大学
理事(研究企画委員会)	和田光平	中央大学
監事	新田目夏実	拓殖大学
監事	山内昌和	早稲田大学

<理事/監事:五十音順・敬称略>

\*\*\*\*\*

日本人口学会 会報 第76号 2019年2月発行 編集発行責任: 日本人口学会2018~2019年度総務委員会

日本人口学会事務局連絡先:

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F一般社団法人学会支援機構内

TEL: 03-5981-6011 FAX: 03-5981-6012

E-mail: paoj@asas-mail.jp http://www.paoj.org/